

研 究

岩手県立磐井病院歯科口腔外科における
過去5年間の入院患者の臨床統計的観察高橋美香子^{1,2)}, 石川 義人¹⁾, 加藤 秀昭²⁾, 齋藤 千尋²⁾,
松本 誠²⁾, 千葉 卓²⁾, 中里 紘²⁾¹⁾ 岩手県立磐井病院歯科口腔外科

(主任: 石川 義人 科長)

²⁾ 岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

(主任: 水城 春美 教授)

(受付: 2015年6月18日)

(受理: 2015年9月7日)

岩手県立磐井病院歯科口腔外科は2007年に開設され、2008年6月から入院患者の受け入れを開始した。今回我々は、当科を受診する患者の実態を把握することを目的として、入院患者について臨床的検討を行ったのでその概要を報告する。調査の対象は2009年4月から2014年3月の5年間に入院した患者で、年度別入院患者数と性別、年齢分布、居住地域別入院患者数、疾患の詳細、手術時の管理法と在院日数、受診経路について調査を行った。5年間の入院患者数は406名で、男性が199名、女性が207名であった。年齢は3歳から94歳までで、20歳代が80名と最も多かったが、70歳以上の患者も80名と多くみられた。居住地域別入院患者数は、岩手県内の合計が389名(95.8%)、そのうち両磐地域が342名(84.2%)、宮城県は14名(3.5%)で、その他の県が3名であった。疾患別患者数は、歯の疾患が226名で半数以上を占め、嚢胞性疾患67名、炎症性疾患53名、腫瘍性疾患36名などであった。手術時の管理法は、全身麻酔が314例、局所麻酔が38例で、手術は行わず、消炎、栄養管理、止血や経過観察を行った症例が54例であった。在院日数は1日から93日で、平均8.6日であった。受診経路は、院外紹介が372名(91.6%)で、そのうち歯科からの紹介が351名(86.5%)、医科からの紹介が21名(5.2%)で、院内紹介は13名(3.2%)、紹介なしは21名(5.2%)であった。当科の紹介患者の状況から、当科に求められている役割について考えると、全身疾患を有する患者の抜歯、埋伏歯の抜去やその他の口腔外科的疾患の精査加療、菌性感染症に対する消炎処置や入院下での経過観察など、口腔外科としての役割と、歯科として全身疾患を有し

Clinicostatistical observation of inpatients treated during the past 5 years at the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Iwate Prefectural Iwai Hospital
Mikako TAKAHASHI, Yoshihito ISHIKAWA, Hideaki KATO,
Chihiro SAITO, Makoto MATUMOTO, Suguru CHIBA, Hiroshi NAKASATO
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Iwate Prefectural Iwai Hospital
(Chief: Dr. Yoshihito ISHIKAWA)
17, Odaira, Kozenji, Ichinoseki, Iwate, 029-0192, Japan

岩手県一関市孤禅寺字大平 17 (〒029-0192)

Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Department of Reconstructive Oral and Maxillofacial Surgery, School of Dentistry, Iwate Medical University
(Chief: Prof. Harumi MIZUKI)
1-3-27, Chuo-dori, Morioka, Iwate, 020-8505, Japan

岩手県盛岡市中央通 1-3-27 (〒020-8505)

Dent. J. Iwate Med. Univ. 40 : 101-114, 2015

ている患者の一般歯科治療を行うことであると推測された。当科周辺では高齢化が加速していることを考慮すると、今後は、口腔外科疾患の診療とともに、有病者、高齢者に対する一般歯科診療においても、病院歯科の利点を積極的に活用した診療を行っていくことがますます重要になると考えられた。

結 言

岩手県立磐井病院は岩手県の南端に位置する人口約 12 万 5 千人（2014 年現在）の一関市にあり、総ベッド数は 315 床、21 診療科を有する総合病院で、精神科と神経科のみの岩手県立南光病院が隣接している。歯科口腔外科は同病院の一診療科として 2007 年に開設され、2008 年 6 月より入院患者の受け入れを開始した。総合病院歯科口腔外科は、院内各科および他の医療機関とも連携が取りやすく、入院管理および高度の医学的管理下での処置も可能である。今回われわれは、当科を受診する患者の実態を把握することを目的に、過去 5 年間に当科に入院した患者について臨床統計的観察を行ったのでその概要を報告する。

対象および方法

対象は 2009 年 4 月から 2013 年 3 月の 5 年間に当科に入院した患者 406 名で、年度別入院患者数と性別、年齢分布、居住地別入院患者数、疾患別患者数、各疾患の詳細、手術時の管理法と在院日数、受診経路について、カルテの内容

を確認して調査を行った。疾患の分類は入院時の臨床診断、病理診断などにもとづき 1 患者 1 疾患とし、数回の入院を繰り返している場合には各回を 1 名とした。

なお、本調査研究は厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」に従った。

結 果

1. 年度別入院患者数と性別

年度別入院患者数は 2009 年度が 74 名、2010 年度 79 名、2011 年度 72 名、2012 年度 95 名、2013 年度 86 名で、年平均入院患者数は 81.2 名であった（図 1）。性別では男性 199 名（49.0%）、女性 207 名（51.0%）であった。

2. 年齢分布

年齢は 3 歳から 94 歳まで幅広く分布し、10 歳未満が 20 名（4.9%）、10 歳代 25 名（6.2%）、20 歳代 80 名（19.7%）、30 歳代 66 名（16.3%）、40 歳代 47 名（11.6%）、50 歳代 49 名（12.1%）、60 歳代 39 名（9.6%）、70 歳代 42 名（10.3%）、80 歳代 31 名（7.6%）、90 歳代 7 名（1.7%）であった（図 2）。

患者数

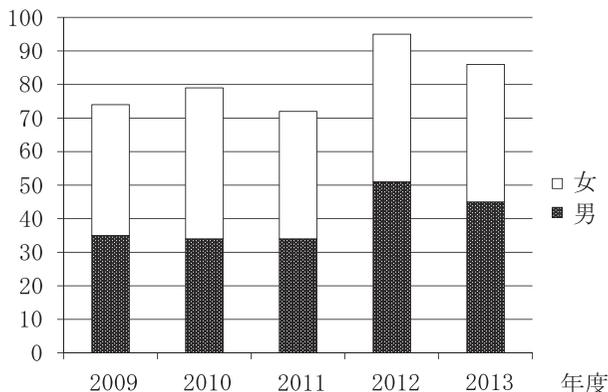


図 1：年度別入院患者数と性別

3. 居住地域別入院患者数

一関市は旧一関市と旧7町村が合併して新一関市となり、この地域は平泉町と併せて両磐地域と呼ばれる。旧一関市の患者が181名、旧7町村が142名、平泉町が19名で、両磐地域全体では342名(84.2%)であった(図3)。一関市と平泉町に隣接する胆江地域は奥州市が33名、金ヶ崎町が6名で合計39名(9.6%)、また、

一関市に隣接した気仙地域である大船渡市と陸前高田市から各1名で合計2名(0.5%)、岩手県内のその他の地域は、県中部地域3名、盛岡地域、宮古地域、久慈地域から各1名で合計6名(1.5%)であった。一関市に隣接する宮城県からは県北部の栗原市、登米市、気仙沼市から合わせて14名(3.5%)で、その他の県が3名(0.7%)であった。

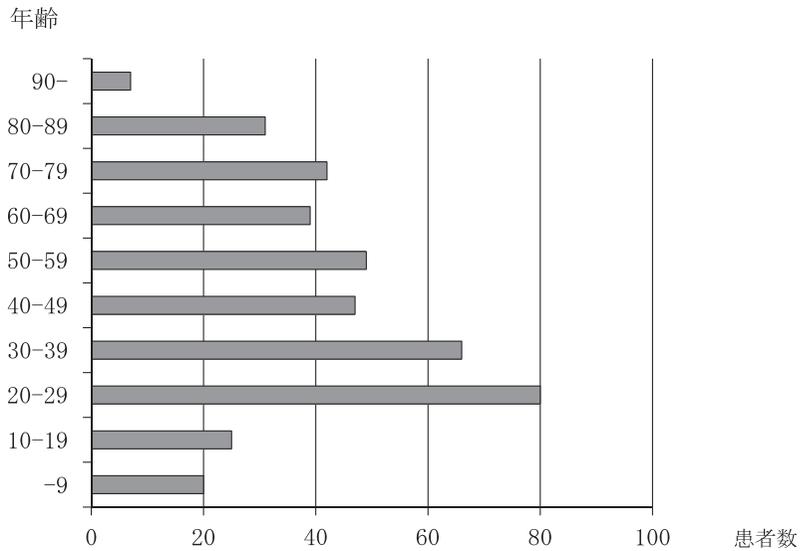


図2：入院患者の年齢分布

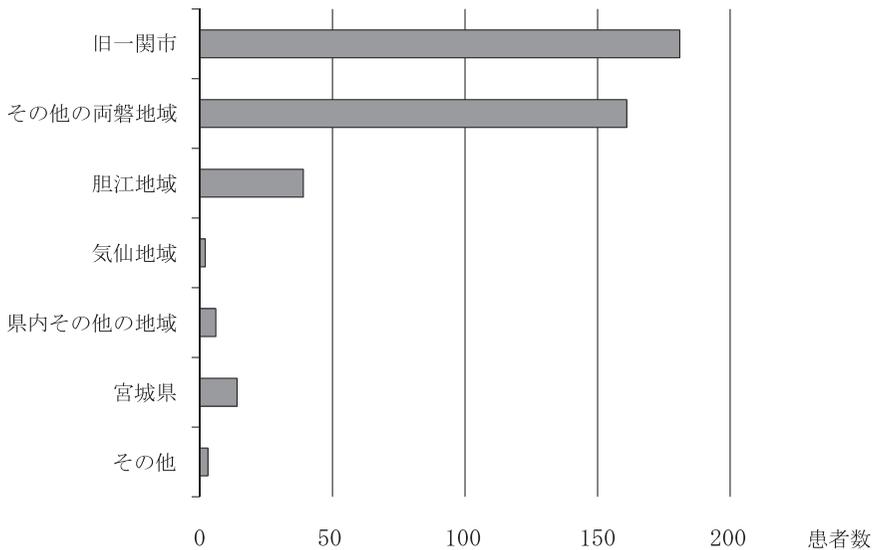


図3：居住地域別入院患者数

4. 疾患別患者数

歯の疾患が226名(55.7%), 嚢胞性疾患67名(16.5%), 炎症性疾患53名(13.0%), 腫瘍性疾患36名(8.9%), 唾石症8名(2.0%), 外傷性疾患7名(1.7%), その他の疾患が9名(2.2%)であった(図4). その他の疾患の内訳は, 舌小帯短縮症3名, 顎関節脱臼2名, 帯状

疱疹2名, 出血2名であった. なお, 腫瘍性疾患には腫瘍類似疾患や粘膜疾患も含めた.

疾患を年代別にみると, 10歳未満から40歳代までは歯の疾患が多く, 50歳代からは嚢胞性疾患, 炎症性疾患, 腫瘍性疾患の占める割合が多くなり, 90歳代では歯の疾患はみられなかった(図5).

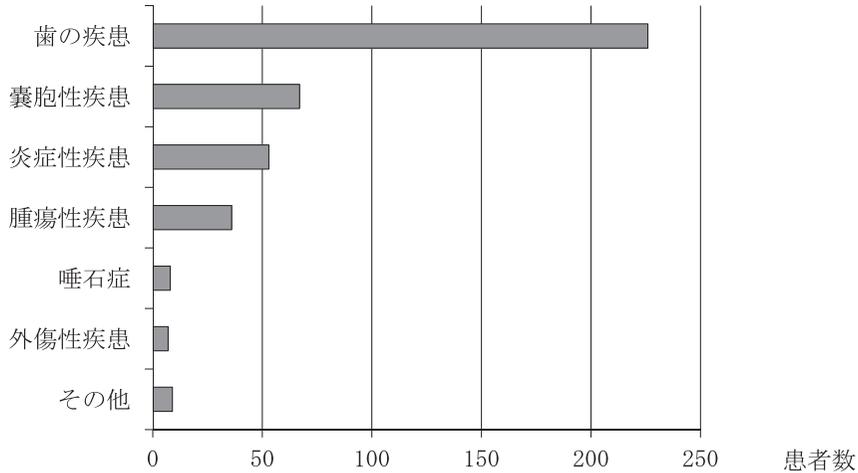


図4：疾患別入院患者数

歯の疾患は, 埋状智歯, その他の埋状歯, 齶蝕や根尖性歯周炎, 辺縁性歯周炎を含む. 嚢胞性疾患は顎骨内嚢胞, 軟組織内嚢胞を含む. 炎症性疾患は顎骨の炎症, 蜂窩織炎や唾液腺炎など軟組織の炎症と上顎洞炎を含む. 腫瘍性疾患には腫瘍類似疾患を含む.

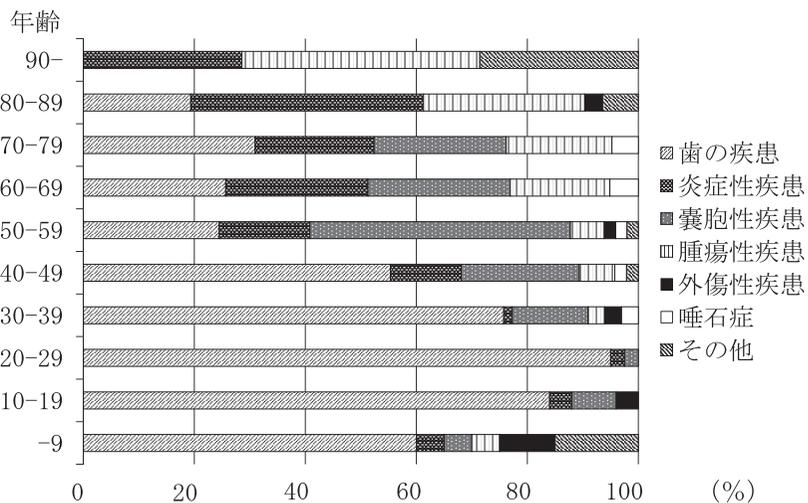


図5：入院患者の各年代における疾患の割合

5. 各疾患の詳細

1) 歯の疾患

歯の疾患 226 例中, 埋伏智歯が 184 例 (81.4%) と大部分を占め, 埋伏過剰歯が 17 例 (7.5%), その他の埋伏歯が 9 例 (4.0%) で, それぞれ抜歯術を施行した. 普通抜歯をおこなったのは 16 例 (7.1%) で, 歯周炎で動揺がある歯や残根状態の歯の抜去であった. 普通抜歯には, 血小板減少症のために輸血がなされた症例が 3 例, 歯科治療恐怖症のため静脈内鎮静法を併用した症例が 2 例あった. 年齢別にみると, 埋伏智歯は 20 歳代と 30 歳代, 埋伏過剰歯は 10 歳未満, そ

他の埋伏歯は 10 歳代, 齲蝕や歯周炎での普通抜歯は 70 歳代で最も多かった (図 6).

2) 嚢胞性疾患

嚢胞性疾患 67 例のうち手術で摘出を行った 65 例について, 病理組織診断が歯根嚢胞であったものが 33 例 (50.8%), 術後性上顎嚢胞が 17 例 (26.2%), 含歯性嚢胞が 6 例 (9.2%), 鼻口蓋管嚢胞が 3 例 (4.6%), 上顎洞粘液貯留嚢胞が 1 例 (1.5%), がま腫が 1 例 (1.5%), その他 4 例 (6.2%) であった. 年齢別には 30 歳代から 70 歳代までが多く, 術後性上顎嚢胞はすべて 50 歳代以上であった (図 7).

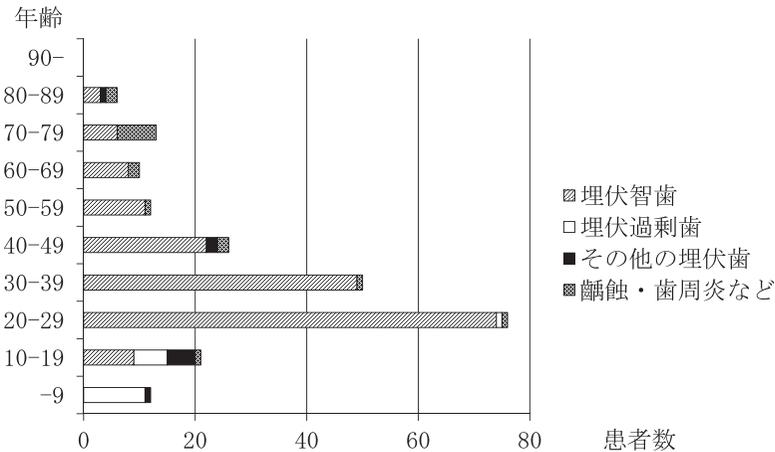


図 6 : 入院患者の歯の疾患の種類と年齢分布

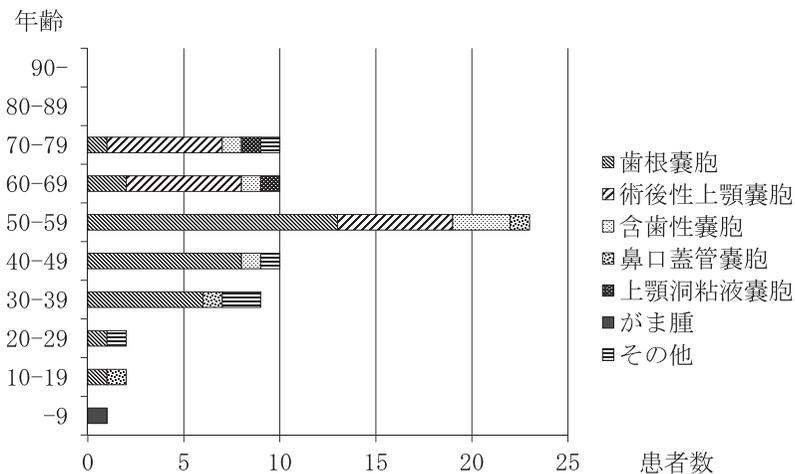


図 7 : 入院患者の嚢胞性疾患の種類と年齢分布

病理組織検査で確定が不可能であった嚢胞は「その他」とした.

3) 炎症性疾患

炎症性疾患 53 例のうち, 上顎洞炎が 14 例 (26.4%), 蜂窩織炎が 13 例 (24.5%), 顎骨周囲炎が 11 例 (20.8%), 骨髓炎が 4 例 (7.5%), 顎骨壊死が 3 例 (5.7%), 唾液腺炎が 3 例 (5.7%) などであった. 入院中, 手術は行わずに抗菌薬の点滴による消炎のみをおこなった症例は 35 例であった. 炎症性疾患は 40 歳代から増加し, 80 歳代で最も多くみられた (図 8).

4) 腫瘍性疾患

腫瘍性疾患は 36 例であった. 悪性腫瘍は 14 例 (38.9%) で, 扁平上皮癌が 13 例, 腺様嚢胞癌が 1 例であった. 良性腫瘍は 11 例 (30.6%) で, 多形腺腫が 4 例, Warthin 腫瘍 1 例, 角化嚢胞性菌原性腫瘍 4 例, 血管腫 2 例であった. その他, 疣贅状過形成が 3 例, 白板症が 2 例, 棘細胞症が 1 例, 外骨症が 3 例, 線維性過形成が 1 例, 骨性異形成症が 1 例であった. 腫瘍性疾患は 10 歳未満からみられたが, 悪性腫瘍は 40 歳代以降で, 80 歳代で最も多くみられた (図 9).

5) 唾石症

唾石症は 8 例で, すべて顎下腺唾石症であった. 腺管内唾石が 6 例 (75.0%) で, そのうち 5 例に唾石摘出を行い, 腺体内唾石の 2 例 (25.0%) は

顎下腺摘出を行った. 腺管内唾石の 1 例は唾石摘出予定であったが, 入院後に撮影した CT で唾石が非常に小さいことが判明し, 機能障害もなかったため手術中止となり退院した.

6) 外傷性疾患

外傷性疾患 7 例のうち, 骨折が 6 例 (85.7%), 歯の脱臼と歯肉の裂傷が 1 例 (14.3%) であった. 骨折では, 下顎骨体部のみの骨折が 4 例で, 関節突起と上顎洞前壁の骨折, 下顎骨体部と関節突起の骨折がそれぞれ 1 例であった. 骨折症例 6 例のうち, 消炎と栄養管理のみの入院は 3 例で, 残りの 3 例に観血的整復固定術を行った.

7) 習慣性顎関節脱臼

習慣性顎関節脱臼は 2 例で, 80 歳代と 90 歳代の女性であった. 1 例は観血的整復術と前方障害形成術を行い, 入院中に義歯作製も行った. 他の 1 例は非観血的に整復を行った.

8) 舌小帯短縮症

舌小帯短縮症は 3 例で, いずれも 10 歳未満の患者であり, 舌小帯伸展術を行った.

9) 带状疱疹

带状疱疹は 2 例で, 1 例は 90 歳代の女性, もう 1 例は 40 歳代の男性であり, 抗ウイルス薬の点滴投与と栄養管理を行った.

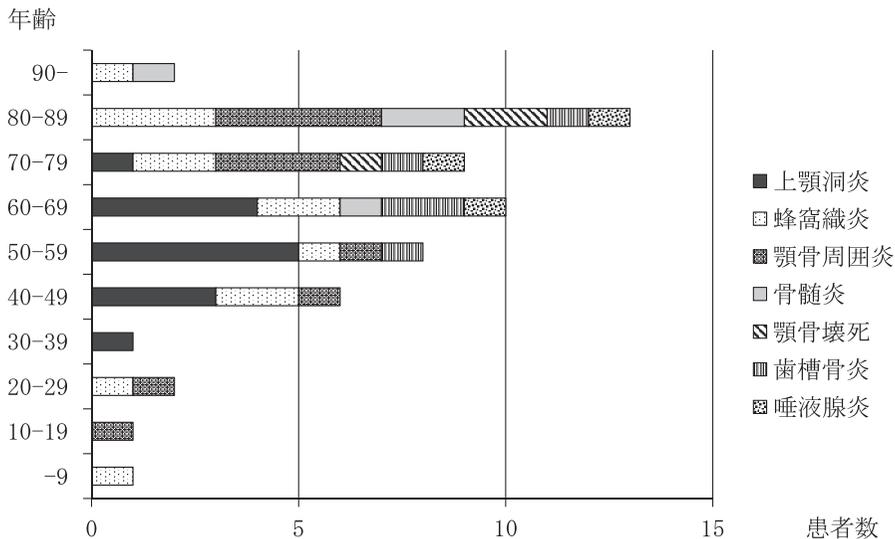


図 8: 入院患者の炎症性疾患の種類と年齢分布

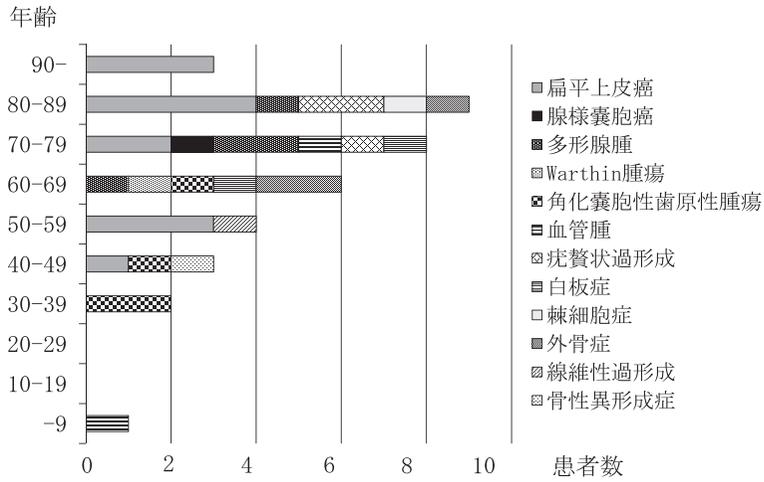


図9：入院患者の腫瘍性疾患の種類と年齢分布

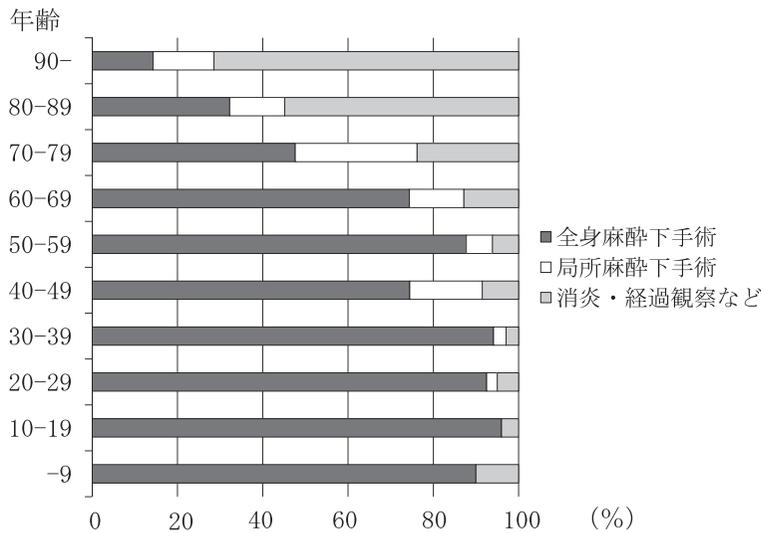


図10：入院患者の年代別の処置

10) 出血

腫瘍以外の原疾患で口腔内出血をきたして入院となった症例は2例であった。1例は止血目的の入院後に検査によって急性骨髄性白血病であることが判明した。他の1例は義歯性潰瘍からの出血であった。

6. 手術時の管理法と在院日数

入院症例406例のうち、手術や生検を全身麻

酔で行った症例は314例(77.3%)、局所麻酔で行った症例は38例(9.4%)で、静脈内鎮静法を併用した症例は3例あった。消炎、栄養管理、止血や経過観察のみの症例が54例(13.3%)であった。年代別にみると、高齢になるほど全身麻酔下手術は減少し、消炎や経過観察目的の入院が増加していた(図10)。また、在院日数は1日から93日、平均8.6日で、高齢になるほど

平均在院日数は増加していた(図 11)。疾患別にみると、歯の疾患 226 例中、全身麻酔下の抜歯が 199 例(88.1%)、局所麻酔下の抜歯は 27 例(11.9%)で、平均在院日数は歯の疾患全体で 4.9 日、埋伏智歯抜去の場合は 6.2 日、普通抜歯は 4.9 日、正中埋伏過剰歯抜去は 4.5 日であった。嚢胞性疾患の 67 例中、全身麻酔下手術は 62 例(92.5%)、局所麻酔下手術は 3 例(4.5%)で、入院後に体調不良のため全身麻酔下手術が中止となった 2 例も含めて、平均在院日数は 7.1 日であった。腫瘍性疾患 36 例中、全身麻酔下手術は 23 例(63.9%)、局所麻酔下手術は 2 例(5.6%)、全身麻酔下での生検は 3 例(8.3%)、局所麻酔下での生検は 2 例(5.6%)、止血や全身管理目的の入院は 5 例(13.9%)で、入院後に全身麻酔下手術が中止となった 1 例を含めて平均在院日数は 14.5 日であった。

7. 受診経路

入院患者 406 名中 385 名(94.8%)が紹介受

診であり、院外からの紹介が 372 名(91.6%)、院内他科からの紹介が 13 名(3.2%)で、紹介状がなく受診した患者は 21 名(5.2%)であった(表 1)。

紹介機関別にみると、歯科からの紹介は計 351 名(86.5%)で、この内訳は、開業歯科医院から 332 名(81.8%)、診療所歯科から 12 名(3.0%)、病院歯科から 7 名(1.7%)であった。また、院外医科からの紹介は計 21 名(5.2%)で、その内訳は開業医院から 10 名(2.5%)、診療所医科から 5 名(1.2%)、病院医科から 6 名(1.5%)であった。

歯科から紹介された症例 351 例を疾患別に分類すると、歯の疾患が 215 例(61.3%)、嚢胞性疾患が 63 例(17.9%)、炎症性疾患が 37 例(10.5%)、腫瘍性疾患が 25 例(7.1%)、唾石症が 6 例(1.7%)などであった(図 12)。また、疾患別に受診経路をみると、歯の疾患、嚢胞性疾患はそのほとんどが歯科からの紹介であった

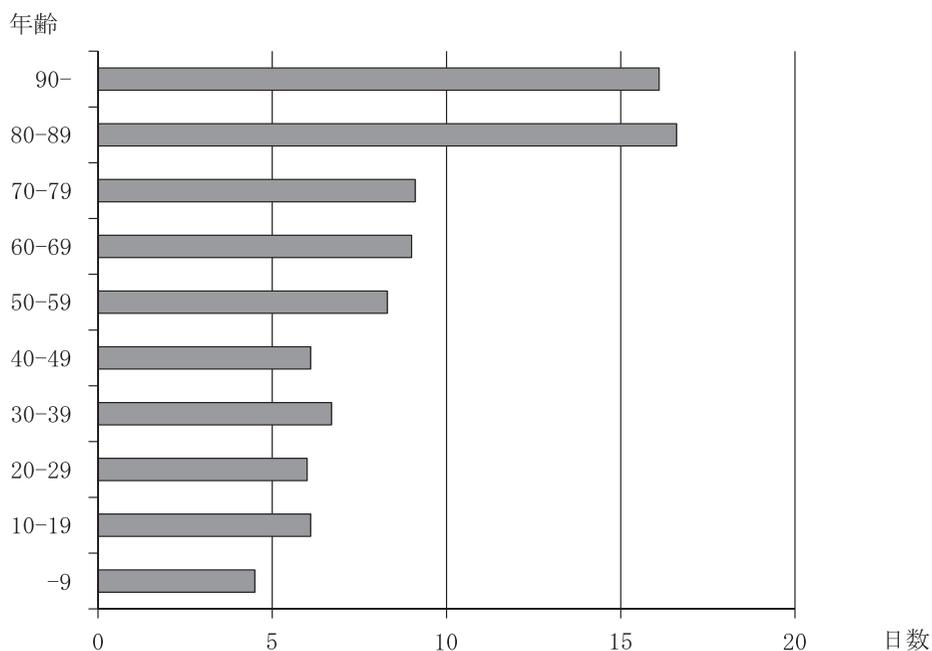


図 11：入院患者の年代別の平均在院日数

受診経路		例数 (%)
院外紹介	歯科	351 (86.5)
	開業歯科医院	332 (81.8)
	診療所歯科	12 (3.0)
	病院歯科	7 (1.7)
	医科	21 (5.2)
	開業医院	10 (2.5)
	診療所	5 (1.2)
病院医科	6 (1.5)	
院内紹介 (医科)		13 (3.2)
紹介なし		21 (5.2)

表1：入院患者の受診経路

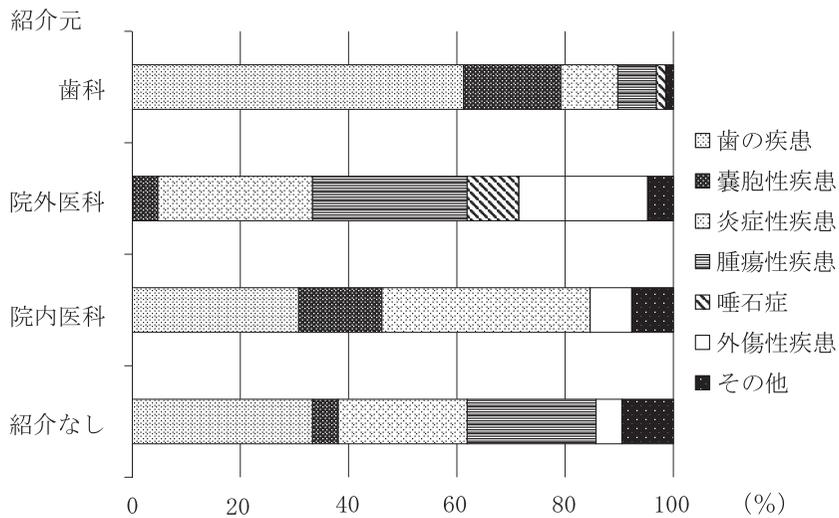


図12：入院患者の受診経路ごとの疾患の割合

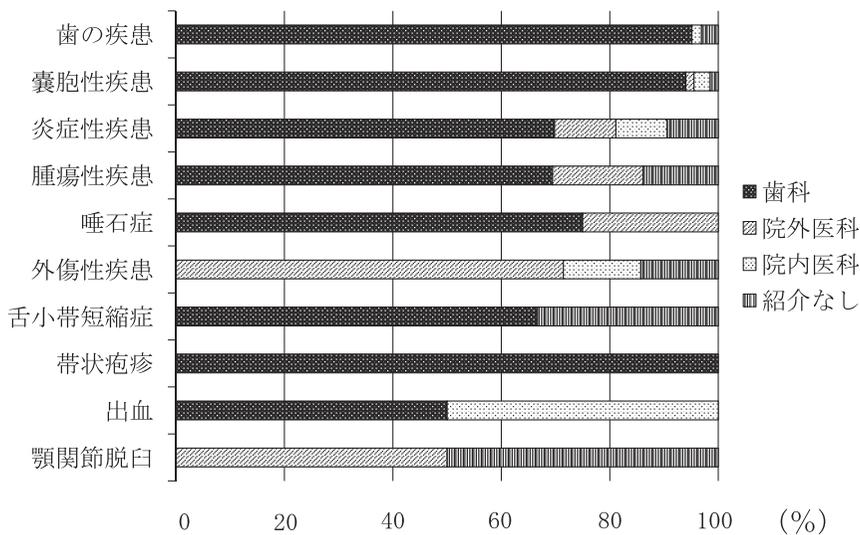


図13：入院患者の疾患別の受診経路

が(図 13), 外傷性疾患は歯科からの紹介は無く, 他の病院医科からの紹介が多かった。

院内外の医科から紹介された症例 34 例(8.4%)は, 炎症性疾患が 11 例, 外傷性疾患 6 例, 腫瘍性疾患 6 例, 歯の疾患 4 例, 嚢胞性疾患 3 例, 唾石症 2 例, 出血と顎関節脱臼がそれぞれ 1 例であった。そのうち院外医科から紹介された 21 例は, 炎症性疾患が 6 例, 腫瘍性疾患 6 例, 外傷性疾患 5 例, 唾石症 2 例などであった。院内他科から紹介された 13 例は, 炎症性疾患 5 例, 歯の疾患 4 例, 嚢胞性疾患 2 例などであった。

紹介なしの 21 例は, 歯の疾患が 7 例, 炎症性疾患が 5 例, 腫瘍性疾患が 5 例などであった。

考 察

2009 年 4 月から 2014 年 3 月までの 5 年間の入院患者数は 406 名で, その期間の当科総新患 4,066 名の 10.0% に相当していた。これは, 他の施設の報告と比較すると, 佐渡市立両津病院歯科口腔外科の 16.5%¹⁾よりは低値であったが, 鳴和総合病院歯科口腔外科 7.9%²⁾, 大阪労災病院歯科口腔外科 8.85%³⁾, 兵庫医科大学歯科口腔外科 6.8%⁴⁾, 富山医科薬科大学歯科口腔外科 7.6%⁵⁾などを上回っていた。外来総新患に対して入院患者の割合が多くなるのは, 当科の場合には全身麻酔下で埋伏智歯抜去を行う患者が多いことや, 交通の便の悪さや高齢により頻回の通院が困難なために入院下での治療を希望する患者が多いことが影響していると推測される。

年齢別には 20 歳代が最も多く, 30 歳代以降は年齢とともに減少しており, この結果は他の施設の報告^{4, 5, 6, 7, 8)}に近似していた。また, 当科の入院患者のうち 70 歳以上の高齢者の割合は 19.7% で, この割合は, 佐渡市立両津病院歯科口腔外科の 70 歳代以上が 34.2% という報告¹⁾に比較すると低値であるが, 鳴和総合病院歯科口腔外科の 70 歳以上 6.1%²⁾, 大阪労災病院歯科口腔外科の 60 歳以上 4.81%³⁾, 兵庫医科大学歯科口腔外科の 70 歳以上 11.5%⁴⁾, 岐阜歯科大学附属病院口腔外科の 70 歳以上 3.9%⁷⁾,

新潟大学歯学部附属病院第二口腔外科の 70 歳以上 7.6%⁹⁾という報告に比較すると高値であった。20 歳代がピークとなるのは埋伏智歯の患者が多いためであり⁶⁾, 60 歳以上が多くなるのは腫瘍性疾患, 嚢胞性疾患や炎症性疾患の患者が増加するためである^{5, 6, 8, 9)}。また, 2009 年の時点で一関市の高齢化率は 30.3%, 後期高齢化率は 17.4%, 2014 年には高齢化率 32.0%, 後期高齢化率 18.5% となっており^{10, 11)}, 70 歳以上の患者が多いことは, 当地における高齢化を反映しているのかもしれない。

居住地域に関しては, 当院所在地である一関市が最も多く, 次いで奥州市であった。奥州市は岩手県内で人口が盛岡市, 一関市に次いで 3 番目に多く, 面積も宮古市, 一関市に次いで 3 番目に広い。一関市, 奥州市の患者が多いのはその地域の人口が多いことと, 当科が入院の受け入れをしている歯科口腔外科の中で居住地に最も近いためであると考えられる。総合病院歯科口腔外科では, その所在地の県内患者が約 9 割を占め^{2, 8, 12)}, 大学附属病院ではそれを下回る傾向にあり^{4, 7, 9)}, 当科でも他の総合病院歯科口腔外科と同様の傾向であった。患者は可能であれば, 居住地に近い病院での加療を希望すると推測されるが, 岩手県南部で歯科口腔外科を有する病院は, 当科の他に奥州市に 2 施設あるが入院患者の受け入れはしていない。また, 宮城県北部では気仙沼市と大崎市にそれぞれ 1 施設存在するが, 一関市に隣接する栗原市や登米市の患者の場合には, 宮城県内の病院よりも, 当院のほうが通院しやすいようである。一関市内でも交通の便は良いとはいえず, 週に 2 日, 決まった曜日だけに 1 日 2 便だけのバスを利用して通院しなければならない患者もいる。このような地域の患者が盛岡市や仙台市などの病院へ通院することは非常に困難である。患者が病院を選択する要素には, 地理的条件, 交通機関の発達状況なども関与しており^{2, 13)}, 当科には岩手県南部および宮城県北部における, 歯科口腔外科疾患の入院患者受け入れ可能な医療機関としての重要な役割があることが確認できた。

歯の疾患については、全て歯の抜去術を行った症例であった。20歳代から40歳代では全身麻酔下で埋伏智歯抜去を行う患者が最も多かった。この年代では、仕事の都合で平日の日中に外来通院を繰り返すことが困難である場合が多く、埋伏智歯が複数ある場合には一括で抜去することを希望する。その場合には全身麻酔下で抜去を行うことを勧めており、入院が必要となる。高齢者では外来で局所麻酔下に手術を行う場合も多くみられたが、全身疾患を有することや、独居あるいは施設に入所している等の事情により、術後の疼痛、止血、栄養管理などに不安があるため、術後の経過観察目的に入院を希望する。また、多数歯抜去が必要でも頻回の外来通院が困難である場合には、入院下で数回に分けて抜去を行うこともある。

嚢胞性疾患は、50歳代で46.9%と最も高い割合を占めていた。他の施設の報告^{5,6,8)}と同様に、嚢胞性疾患の中では歯根嚢胞が最も頻度が高く、次いで術後性上顎嚢胞であった。

炎症性疾患は、他施設でも受診頻度の高い疾患であり^{1,2,6,7,14,15)}、当科でも歯の疾患に次いで多くみられた。炎症性疾患は40歳代から増加し、80歳代が13例と最多を示した。高齢になると炎症が重篤化しやすくなることや、抗菌薬の点滴のために連日外来通院することが困難になることが、入院患者の増加につながると思われる^{1,5,15)}。炎症性疾患の原因は大部分が菌性感染であり、また歯根嚢胞も齶蝕の延長線上にあることを考えると、これらの疾患の頻度が高いということは、当病院の周辺地域では未だ口腔衛生思想の普及に力を入れねばならないことを示していると思われる。また、60歳代以降では骨髄炎や顎骨壊死がみられたが、高齢になるほど乳癌や前立腺癌による骨転移に対して、ビスフォスフォネート製剤その他骨代謝に影響を及ぼす薬剤での治療を受けている患者が多くなることが影響していると推測される。

腫瘍性疾患については、60歳代からその割合が増加しはじめ、80歳代では29.0%、90歳代では42.9%を占めていた。悪性腫瘍患者につい

ては、転移の疑いがなく原発巣の範囲が比較的限られ、手術による腫瘍切除が第一選択となる場合には当科で手術を行っていたが、それ以外の患者については、確定診断後に岩手医科大学付属病院歯科医療センター口腔外科へ、精査および加療を目的として紹介していた。

平均在院日数に関しては、年代別にみると10歳未満から40歳代までは1週間以内と短期間であったが、50歳代以降、とくに80歳代では16.6日、90歳代では16.1日と長くなっていた。これは、高齢になるほど腫瘍性疾患、嚢胞性疾患や炎症性疾患の割合が増えることに起因していると考えられる。

受診経路については、94.8%が紹介患者であったが、紹介率は他施設の報告^{1,6,7)}に比較して高かった。紹介元は歯科医療機関が86.5%で、紹介内容は、埋伏智歯抜去依頼が51.9%と最多を占めていた。紹介率は地域医療機関との連携を図る指標とされており¹⁾、当科では歯科医療機関が最も重要な来院経路であり、地域歯科医療機関との連携を保ちながら役割分担がうまく行われていることが推測された⁸⁾。院外医科からの紹介は炎症性疾患、外傷性疾患、腫瘍性疾患が上位を占めており、具体的には、顔面の腫脹を主訴に近くの医療機関を受診し、原因が口腔内にあると診断されて当科へ紹介された炎症性疾患の症例や、かかりつけの医療機関で口腔内の病変について相談した結果、当科へ紹介された腫瘍性疾患の症例、他の部位の骨折の治療後など、全身的に問題が無いことが確認されたのちに当科へ紹介された外傷性疾患の症例などであった。これらの結果から、当科は院外の医科医療機関からも、口腔外科疾患を扱う科であると認識されていることが確認できた。一方で、院内医科からの紹介は、炎症性疾患、歯の疾患が上位を占めていた。具体的には、炎症症状のために救急外来を受診し、当科へ紹介され、抗菌薬の点滴を連日行うために入院する症例や、救急外来から当科紹介後に外来通院下で消炎を行い、その後、炎症の原因となった歯の抜去を目的に入院する症例などであった。他には、抜

歯など出血を伴う処置に不安がある患者が、歯科治療を受けたいと担当医に相談した場合や、他科入院中に歯性感染症が生じたために紹介された症例であった。院内紹介の場合、緩和医療科入院中に、口腔乾燥や口内炎、カンジダ症や義歯不適合などの症状があつて紹介されたり、外科で入院をして手術を受けた後、退院までの間に歯の痛みや義歯不適合を訴えて紹介される症例が多い傾向にある。このような症例は外来で診察をして投薬を行ったり、一般的な歯科治療を行うだけで済むため、当科の入院患者数の増加にはつなげていないと思われる。

総合病院歯科口腔外科にとって、病院内外からの紹介および依頼は、院内または地域における存在意義や期待度を表すものとして重要であるといわれている¹⁶⁾。また、総合病院歯科口腔外科の社会的な役割について、指出ら¹⁷⁾は、専門知識に基づいた口腔外科疾患の管理だけではなく、地域の開業歯科医院と高次医療機関を結ぶ中継手段としての重要性を述べている。患者の受診経路と疾患の状況から、当科に求められている役割について考えると、開業歯科医院では対応困難な全身疾患を有する患者の抜歯、埋伏歯の抜去やその他の口腔外科疾患について精査加療を行うこと、開業歯科医院では対応困難な歯性感染症に対する消炎処置や入院下での経過観察、口腔内の病変に対する精査加療を行うこと、そして場合によっては大学病院へ患者を紹介することである。一方で、院内他科入院中あるいは通院中の患者の一般歯科治療を行うことも期待されていると推測されるが、一般歯科治療といっても、医科通院中の患者は何らかの全身疾患を有しているため、全身状態に配慮して治療に当たることが求められている。

今回の調査で、当科は地域医療機関から求められている役割を十分に果たしていることが確認できたが、今後は、口腔外科疾患の診療とともに、ますます増加することが予想される有病者や高齢者に対する一般歯科診療においても、総合病院歯科口腔外科の利点を積極的に活用した診療を行っていくことが重要になると考えら

れた。

本論文の要旨は、岩手医科大学歯学会第40回総会(2014年12月6日、盛岡市)において発表した。

利益相反

本論文に関して開示すべき利益相反状態はない。

引用文献

- 1) 高山裕司, 児玉泰光, 中山正文, 勝見祐二, 猪本正人, 高木律男: 佐渡市両津病院歯科口腔外科における外来および入院患者の臨床統計的観察, 最近5年間の動向について. 新潟歯学会誌, 38: 77-85, 2008.
- 2) 加藤一栄: 鳴和総合病院歯科口腔外科における過去3年間の入院患者の臨床統計的観察. 日口外誌, 33: 1172-1177, 1987.
- 3) 大田光徳, 宇野一雄, 坂本隆弘, 中悟 司: 大阪労災病院歯科口腔外科入院患者の20年間における臨床統計的観察. 日口外誌, 30: 128-138, 1984.
- 4) 名取 淳, 中島 亨, 本多公亮, 桜井一成, 石川俊明, 柳沢高道, 前田憲昭, 吉岡 濟: 兵庫医科大学歯科口腔外科開設後5年間における入院患者の臨床統計的観察. 日口外誌, 32: 2144-2149, 1987.
- 5) 沢元正登, 沖田 進, 小竹 彌, 水分寿雄, 杉本裕史, 吉森寿美代, 梶村朗, 山本康一, 吉田 勲, 早津良和, 戸塚盛雄: 富山医科薬科大学歯科口腔外科開設後4年間における患者の臨床統計的観察. 日口外誌, 31: 2269-2280, 1985.
- 6) 櫻井健人, 横林敏夫, 清水 武, 五島秀樹, 鈴木理絵, 大久保雅基, 長田美香: 長野赤十字病院口腔外科開設後20年間の外来患者の臨床統計的観察. 新潟歯学会誌, 34: 195-202, 2004.
- 7) 磯回政彦, 藤本和久, 亀谷明秀, 内藤講一, 北島 正, 山上隆裕, 筑谷康二, 中井道明, 小林一光, 堀田 恒: 岐阜歯科大学付属病院口腔外科入院患者の最近7年間の臨床統計的観察. 日口外誌, 31: 116-125, 1985.
- 8) 鈴木理絵, 横林敏夫, 清水 武, 五島秀樹, 田尻朗子: 長野赤十字病院口腔外科における紹介患者の臨床統計的観察. 新潟歯学会誌, 31: 21-28, 2001.
- 9) 青山玲子, 高木律男, 星名秀行, 小野和宏, 永田昌毅, 飯田明彦, 福田純一, 小林龍彰: 最近10年間の新潟大学歯学部付属病院第二口腔外科入院患者の臨床統計学的検討. 新潟歯学会誌, 31: 153-157, 2001.
- 10) 一関市. “一関市高齢者福祉計画.” 一関市. 2012-10-01. <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index>.

- cfm/7,16368,c.html/16368/20120508-084723.pdf.
(参照 2015-07-20) .
- 11) 一関市. “一関市高齢者福祉計画.” 一関市. 2014-10-01. <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,61926,c.html/61926/20150414-112530.pdf>.
(参照 2015-07-20) .
 - 12) 大儀和彦, 山中康嗣, 関東里衣, 今井裕一郎, 河野太郎, 岸 宗弘, 黒瀬尚利, 植村和嘉, 桐田忠昭: 高井病院歯科口腔外科開設後5年間における新患者の臨床的観察. 奈医誌, 54: 103-112, 2003.
 - 13) 藤崎 誠, 向井 洋, 杉原一正, 有村健二, 新屋俊明, 福本久郎, 藤崎松一, 山下佐江: 過去10年間の小児入院患者の臨床統計的観察. 小児口腔外科, 2: 8-18, 1992.
 - 14) 堀内克啓, 服部明伸, 吉川智也, 中橋一裕, 土田雅久, 西岡博人, 露木基勝, 浅香 信, 竹内尚則, 望月光治, 吉田育弘, 権 利信, 桐田忠昭, 植村和嘉, 匠原悦雄, 河野孝行: 奈良県立医科大学付属病院口腔外科開設後5年間における外来患者の臨床統計的観察. 奈医誌, 41: 351-363, 1990.
 - 15) 武田幸彦, 金子恭士, 根橋克明, 岡野篤夫, 加藤譲二: 佐渡総合病院歯科口腔外科1993年度受診患者の臨床統計的観察, 高齢入院患者について. 老歯学, 9: 214-217, 1995.
 - 16) 川口辰彦, 浅原道子, 神崎理子: 総合病院歯科における有病者, 障害者歯科の現状について. 日有病歯誌. 3: 1-15, 1994
 - 17) 指出 豊, 天笠光雄, 泉 祐幸: 歯科口腔外科医院と地域拠点病院および大学病院との病診連携に関する検討. 日歯医療福祉会誌, 8: 1-6, 2003.

Clinicostatistical observation of inpatients treated during the past 5 years at the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Iwate Prefectural Iwai Hospital

Mikako TAKAHASHI^{1,2)}, Yoshihito ISHIKAWA¹⁾, Hideaki KATO²⁾,
Chihiro SAITO²⁾, Makoto MATUMOTO²⁾, Suguru CHIBA²⁾, Hiroshi NAKASATO²⁾

¹⁾ Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Iwate Prefectural Iwai Hospital

(Chief : Dr. Yoshihito ISHIKAWA)

²⁾ Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Department of Reconstructive Oral and Maxillofacial Surgery,

School of Dentistry, Iwate Medical University

(Chief : Prof. Harumi MIZUKI)

[Received : June 18, 2015 : Accepted : September 7, 2015]

Abstract : Department of Oral and Maxillofacial Surgery of Iwate Prefectural Iwai Hospital was opened in 2007 and the inpatient clinic started in June 2008. We performed clinicostatistical observation on inpatients over the past 5 years from April 2009 to March 2013. The results were as follows:

1. The total number of inpatients was 406. 199 patients were males and 207 were females. The most common age of inpatients was 20-30 year olds (19.7%) .
2. In regard to where they lived, 389 inpatients (95.8%) were from Iwate Prefecture, 323 inpatients (79.6%) were from Ichinoseki-city, 14 inpatients (3.5%) were from Miyagi Prefecture, and 3 inpatients were from other areas.
3. The distribution of disease of the inpatients were as follows: Tooth disorders were 226 (55.7%) , cystic disorders were 67 (16.3%) , inflammatory disorders were 53 (13.0%) , neoplastic disorders were 36 (8.9%) , and others were 25 (6.2%) .
4. 314 operations were performed under general anesthesia and 38 were under local anesthesia. 54 were hospitalization for reasons such as anti inflammation or other reasons.
5. The average amount of hospitalized time was 8.6days.
6. 372 inpatients (91.6%) were referred to us from other clinics, and 13 patients (3.2%) were referred to us from other departments of our hospital. Dental clinics were the much source of referrals in the vast majority of outside patients.

It was revealed that our department assumes an important role in south Iwate Prefecture and north Miyagi Prefecture.

Key words : Clinicostatistical observation, inpatients, Oral and Maxillofacial Surgery, General hospital